

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:2021年 11月 28日

事業所名: 発達支援ルームでこポン

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。
評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。(回答は%で表示しています)

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	73	27	0	特に放デイ児は利用枠によりスペースが制限されてしまう。	91	8	0	1	もう少し広がったら他にもいろんなことが出来そうに思います。もう少し広い方がいい。	療育内容に応じて会議室などの別室の使用を考えていく。空き倉庫の整理をして療育で生かせないか考える。
	2 職員の適切な配置	73	27	0	人員配置基準上は多く配置されているが、支援の内容によっては対応が難しい職員もいる。	99	0	0	1	職員の方は手厚くサポートしていただけいています。	職員全体の療育に対するスキルの底上げ。ケースによって対応する職員や数を臨機応変に配置。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障がいの特性に応じた設備整備	90	10	0	クールダウンできるスペースや対人緊張の強い児へは会議室の使用など準備している。個人に応じたサーキットボードの作成 視覚情報を削減するためにカーテンなどを使用して環境調整している。	98	1	0	1		個々に応じて必要な配慮をふまえた設定を心掛ける。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	54	36	10	分担の他に気づいた職員が掃除している。 定期的に掃除しているがサービスの内容上、埃がたちやすい。毎時間、換気と消毒を行っている。 掃除はこまめに行っているが設備上どうしても埃がたつ。 空き時間に掃除を行うなど清潔な環境で療育が出来る様取り組んでいる。 窓の棧に埃がたまっていることがある。	100	0	0	0		床の汚れや、窓の棧など細かいところも引き続きこまめに掃除を行っていく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	45	45	10	全体会で業務分担などの振り返りを行っている。 業務によりばらつきがある。 職員全体で振り返ることが少ない。						職員全体会で振り返りと次の設定などを考えていく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	10	54	36							法人で必要性を考えていく。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	90	10	0	毎月勉強会を行っている。 職員のスキルに応じ会社主体で研修に参加させている。 事業所内での勉強会をはじめとし、研修会情報は回覧して参加しやすいようにしている。						毎月の合同勉強会や会社主体の研修受講に加え、個々のスキルに応じた研修受講を引き続き進めていく。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	90	10	0	保護者に直接子どもの様子を聞き取りしより良い計画を作成している。	100	0	0	0		子どもと保護者のニーズを踏まえ、少しでも良くなっていく計画の作成を目指す。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	100	0	0		99	0	0	1		個々の職員の支援の引き出しの底上げを目指す。
	3 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	63	10	27	集団活動についてはコロナ対策のため現在中止している。(落ち着けば再開)						同じ時間帯の子どもどうして一緒に行えることも考えていく。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標		
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見	
適切な支援の提供（続き）	4	90	10	0		98	0	0	2	計画作成した時だけでなく、常日頃から計画を振り返りそれに沿った支援が来ているか振り返る。		
	5	45	55	0	個別療育のためチームよりも個々での立案が中心 個別性が高いので担当者が主。					コロナ禍で集団療育が難しい分、例えば個別療育時に共通の製作物（季節に応じた壁画など）を作ることが出来ないか検討してみる。		
	6	82	18	0	職員のスキルによりばらつきがある	94	3	0	3	器具が定期的に変わり、様々な活動ができるところが良いです。	ニーズに対応する遊びの引き出しを増やせるよう職員のスキルアップをめざす。	
	7	27	55	18	課題の着目点については、平日や長期休暇に応じて児の状態を評価することに重きがあるケースもある。 基本的に年間を通して個別療育であるが、課題の内容や負荷はその日によって調整している。年間を通して平日も長期休暇も利用の仕方は変わらない。						児の特性理解を深める。TPOによって状態に変化が起きやすいパターンがあれば把握しておく。（過去の記録参照、申し送り保護者からの聞き取りなど）	
	8	100	0	0	朝のミーティングでその日の割り振りをすり合わせている。時間が足りなかったりして、すり合わせた内容について確認するのが難しいと感じる。						事前に情報共有を行うなど、口頭だけでなくメモも利用するなど、時間がかからないすり合わせの方法を検討、実施する。	
	9	27	55	18	職員によりばらつきがある。						児の環境設定、道具など個々にひつようなものをまとめて全員が把握できるようにする。	
	10	90	10	0	遅出、日直の業務に組み込み、漏れがないように工夫している。職員によりばらつきがある。						記入漏れをなくせるように、例文の書き方に倣ったりして確認を行う。	
	11	100	0	0							継続して定期的に行っていく。	
	関係機関との連携	1	90	10	0	担当スタッフ・児発管が出席できるように調整している。						継続して担当者・児発管が出席していく。
		2				該当者なし						該当なし
		3				該当者なし						該当なし
関係機関との連携（続き）	4	82	18	0	保護者からの要望に基づき、必要に応じて行っている。 特に小学校入学前には必要に応じて小学校の教諭と情報共有を行っている。						継続して行っていく。 要望に応えるだけでなく、必要なケースは保護者に提案し小学校等と連携が取れるように話し合っていく。	
	5	55	35	10	必要に応じ保護者の了解を得ながら行っている。 終了報告書等を作成し共有するようにしている。						保護者の意向も踏まえながら円滑に移行できるよう情報共有を行っていく。	
	6	55	45	0	相談員を通じたり、発達障がい者支援センター主催の研修会に参加したりしている。						継続して連携、研修会の受講など行っていく。	
	7	10	0	90	療育の個別性が高く、利用時間が短いため交流の機会は持っていない。	31	8	10	51	集団療育には参加していないので、もしかしたら集団のほうでこういった機会があるのかもしれませんが、今のところは聞いたことはないです。 コロナ禍なのでなかなか難しいと思う。	療育の個別性が高く、コロナ禍もあり現状では難しい面がある。	
	8	0	18	82	個別療育中心で行っており、季節行事はおこなっていない。 地方祭の際は神輿巡行のルートになっており駐車場を一時休憩所としている。						機会が再開すれば地域との交流も行っていく。	
保護者への	1	100	0	0	必ず契約時に説明している。	100	0	0	0	契約時に必ず説明を実施しているが、利用途中で保護者から不明点があがった際に対応できるよう、契約時以外スタッフがデモ意識を持つようにする。		

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
説明責任・連携支援	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	90	10	0		99	0	0	1	計画案作成時に必ずおこなっているが、わかりやすく平易な言葉で説明できるようこころがける。	
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	18	72	10	日々の生活へ行かせるようにフィードバックを行っている。職員によりばらつきがある。	64	10	2	24	是非してほしいです。客観的に教えてほしい。自分おやり方が正しいのかは時々わからなくなることもある。	保護者の方が不安に思っていることに対し、普段療育で行っていることを伝え、家庭でできることはないか検討する。
保護者への説明責任・連携支援（続き）	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	82	18	0	療育後、意識的にフィードバックの時間を取り入れるようにしている。職員によりばらつきがある。	100	0	0	0		引き続き、療育後に担当者から保護者へフィードバックを行い、ケースによっては時間を取っての説明や聞き取りを行っていく。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	73	27	0	職員によりばらつきがある。	99	0	0	1		相談があった時は、相談内容と対応・助言を職員間で共有する。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	10	27	63	コロナ感染対策の影響あり	17	12	17	54	コロナ前はありましたがコロナ禍では難しいのではないのでしょうか？コロナ禍なのでなかなか難しいことが多いと思います。	オンラインを活用した情報交換会の企画が出来ないか検討してみる。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	90	10	0		64	4	0	32		引き続き苦情受付窓口や対応体制について職員全体で迅速に対応できるように把握する。
	8 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	100	0	0		98	0	0	2		口頭だけでなく、メールやラインなどを用いての情報伝達を行っている。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	90	0	10	新聞を定期的に発行し利用家庭へ配布している。	88	1	0	11		継続して定期的に新聞を発行していく。HPの更新もこまめに行う。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	100	0	0	個人情報や重要書類はカギ付きの書庫へ保管している。	99	0	0	1		個人情報が記載されている書類を使用した後はすぐに書庫か引き出しへ保管するよう努める。
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	82	18	0	マニュアルは作成しており入職時に提示しているが、周知できているかは不明な点がある。	93	1	0	6		全体会などの職員会議の機会に周知と確認をする。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	82	18	0	避難訓練は年2回（1回は消防署立ち合いのもと）行っている。火災以外の訓練も今後必要と思う。	54	1	1	44		でこポンで取り組んでいる内容や児を含めた訓練を知ってもらう機会を作る（新聞など）火災以外の訓練や対応を実施し、職員全体で把握に努める。
非常時等の対応（続き）	3 虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	82	18	0	委員会を立ち上げている。年に1回伝達講習を行っている。						虐待防止委員会を中心に研修会を行い職員全員の意識を高めていく。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	82	18	0	必要な場合は同意書を作成し同意のサインをいただいている。						引き続き日のようなケースは子どもと保護者への説明と了解を得た上で行っていく。計画と記録にも残す。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	27	55	18	基本的に食事の提供は無い。アレルギーの有無は契約時に確認している。食に関連する活動を行う際は、その都度保護者へ聞き取りを行っている。（年間通して数は少ない）						食に関する療育を行う場合は、使用する食材を明らかにし、保護者へ照会してから行う。必要に応じて主治医に相談する。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	100	0	0	積極的に作成と回覧を行い情報共有と周知をしている。						引き続き、積極的に作成し情報共有し事故につながらないよう徹底していく。